

2017（平成29）年度
熊本大学教育学部フレンドシップ事業

実施・成果報告書



熊本大学教育学部
附属教育実践総合センター

2018（平成30）年3月

目 次

はじめに

- 1 平成29年度熊本大学教育学部フレンドシップ事業シンポジウム・分科会 開会に寄せて
..... 熊本大学教育学部長 八 幡 英 幸 1
- 2 主体的に実践的指導力を育む「フレンドシップ事業」の成果
..... 教育実践総合センター長 干 川 隆 2

I メイクフレンズ活動の実施報告

- 1 メイクフレンズについて 3
- 2 2017（平成29）年度メイクフレンズ活動体系について
..... 熊本大学教育学部2年 島 村 健 佑 5
- 資料 2017年度熊本大学メイクフレンズ学生名簿 8
- 3 2017年度メイクフレンズ年間活動一覧 10
- 4 2017年度メイクフレンズ外部依頼による活動一覧 14
- 5 2017年度活動報告 15
 - （1）メイクフレンズ「五福ホールA班」活動報告書
 - （2）メイクフレンズ「五福ホールB班」活動報告書
 - （3）メイクフレンズ「託麻単発班」活動報告書
 - （4）メイクフレンズ「大江単発班」活動報告書
 - （5）メイクフレンズ「中央単発班」活動報告書
 - （6）メイクフレンズ「大江プランナー班」活動報告書
 - （7）メイクフレンズ「東部プランナー班」活動報告書
- 6 2017（平成29）年度熊本大学教育学部フレンドシップ事業シンポジウム・分科会開催要項
..... 48

II 分科会の実施報告

- 1 メイクフレンズ学生自主企画分科会 53
- 2 実施計画 54
- 3 合同分科会の事後アンケート結果 86

III 教育実践総合センター教員からのメッセージ

- 1 子ども理解に資する二つの力：「新たな知識を創造する力」と「学びに向かう力」
..... 教育実践総合センター教授 中 山 玄 三 93
- 2 平成29年度フレンドシップ事業シンポジウムに参加して思うこと
..... 教職大学院シニア教授 長 濱 茂 喜 95

平成29年度熊本大学教育学部フレンドシップ事業シンポジウム・分科会 開会に寄せて

熊本大学教育学部長 八 幡 英 幸



皆様、お早うございます。ただいまご紹介に与りました、教育学部長の八幡です。平成29年度熊本大学教育学部フレンドシップ事業シンポジウムの開催おめでとうございます。開会にあたりまして、学部を代表して一言ご挨拶を申し上げます。

本日は、大変ご多忙な中、熊本県教育庁教育総務局社会教育課審議員の本村由紀博先生、熊本市市民局市民生活部生涯学習課社会教育主事の川口雅嗣先生をはじめとしまして、熊本県・市の連携協力機関から多数の先生方にご臨席いただきましたことに対し、心より感謝申し上げます。また、ここまでメイクフレンズの学生たちをご指導いただきました学部及び教職大学院の先生方に対しても深く感謝申し上げます。

さて、本学部では、公民館等の社会教育施設との連携に関わるフレンドシップ事業は、次のような理由から今後も推進して参りたいと考えています。

一つには、新学習指導要領の理念である、「主体的・対話的で深い学び」を実現するには地域との連携が不可欠だからです。特に、「対話的な学び」については、「子供同士の協働、教員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める」ことが重要であると言われています。これから行われる実施報告におきましても、学生たちの「主体的」な取り組みの姿に加え、地域での出会いを通じた「対話的な学び」の姿が見られるものと期待しています。

また一つには、これからの学校には、「地域とともにある学校」、「コミュニティスクール」の実現が求められているからです。教育学部で教員を目指して学ぶ学生たちが、地域の社会教育施設に出かけ、そこに集う様々な人々と交流することは、そのような今後の学校の姿につながると考えています。

ちなみに、昨日、本学部で開催いたしました人権教育後援会に講師としてお越しいただいた、九州大学基幹教育院のコミュニケーション・バリアフリー支援室の面高有作先生は、本学部の心理学科の卒業生であり、メイクフレンズの皆さんの先輩でもあります。障害を持つ学生や教職員に対する支援について、大変素晴らしいご講演をいただきましたが、学生時代のメイクフレンズの活動を通じて経験したことが面高先生の今のご活躍につながっているように思いました。

学生からの実施報告に際しましては、熊本市中央公民館・大江公民館の永山健先生、五福公民館の東田明洋先生、託麻公民館の赤木一延先生、東部公民館の深迫裕樹先生からご助言を、また、その後、連携協力機関を代表して、熊本県生涯学習推進センター審議員の吉川良二先生、同社会教育主事の佐藤倫子先生、熊本市市民局市民生活部生涯学習課の川口雅嗣先生からコメントを、さらには、熊本県教育庁教育総務局社会教育課審議員の本村由紀博先生からご講演をいただく予定であると聞きしています。

学生たちの報告に対し、忌憚なきご意見をいただきますとともに、今後とも本事業をご支援いただきますようお願い申し上げ、私からの挨拶に代えさせていただきます。

主体的に実践的指導力を育む「フレンドシップ事業」の成果

熊本大学教育学部附属教育実践総合センター長 干 川 隆



フレンドシップ事業（フレンドシップ体験学習）は、平成9年度から質の高い教師を育てるために「子どもたちと学生のふれあい」を目的に実践センターのもとで展開されています。現在、この事業は学生たちの意識の高まりに伴い、「メイクフレンズ」というサークルとして、自主的に企画・運営されています。

教育学部学生のほとんどは、教師になることを目指して入学していますが、3年次の教育実習になるまでは、子どもたちと直接に関われる機会は限られています。現在の3年生から教職基礎実践演習が授業として位置づけられ、1・2年生で近隣の小中学校を訪問して児童生徒に関わる機会が設けられましたが、年に2回では十分に関わることは難しいでしょう。したがって、教育学部で直接に子どもたちに関わることができるのは、メイクフレンズに参加することです。

今回のフレンドシップ事業シンポジウム「実施報告」では、船長の島村君の「子ども理解」を共通した目的に設定し、7つの班が「居場所づくり」「個性の発揮」「個人の輝き」「自主性」「思いやり」をキーワードとして報告されました。これらのキーワードは、いずれもの一人一人の子どもの立場や目線に立った課題の設定です。この課題を達成するために、各班でゲームやミッションなどのゲーム的な要素を取り入れた活動や、活動の大きさを工夫したり、環境作り、ロールプレイなども取り入れていました。さらに、援助を少しずつ少なくすることは、将来の教師になったときにきっと役に立つに違いありません。報告の中で示されたムービーを見ると、参加した子どもたちがとても楽しく、笑顔で活動に参加していました。参加できた子どもたちは、きっと幸せだったと思います。その子どもたちの姿は、学生の皆さんにとっても他ではない貴重な体験になるでしょう。成果と同時に、振り返りの中で反省点も挙げられていました。計画した通りにうまくいったことは良いことですが、それと同様に計画した通りにうまくいかなかった経験は次につながる貴重な経験となります。

シンポジウムでの学生による主体的な取り組みは、日頃、受け身的に授業に参加しているときの学生の姿とは異なって輝いていました。大学教員が、学生を個人として尊重し、その主体性を生かせるような機会を設定することの必要性を痛感しています。

最後になりますが、日頃からメイクフレンズの活動にご指導ご助言をいただいている先生方に御礼を申し上げます。また、実施・成果報告会にご多用な中ご出席いただき貴重なコメントをいただきました、熊本県教育庁並びに熊本市教育委員会の先生方に厚くお礼を申し上げて、結びの言葉とさせていただきます。ありがとうございました。

I. メイクフレンズ活動の実施報告

メイクフレンズについて

全国国立大学教育学部において文部科学省が推進しているフレンドシップ事業は、さまざまな体験活動を子どもたちと学生がともに行い、ふれあう中で学生が子どもたちの気持ちや行動を理解し、実践的な指導力の基礎を身につけることをねらいとしています。

メイクフレンズは、このフレンドシップ事業の一環として行われた、熊本大学教育学部の授業から発展した学生主体の活動です。メイクフレンズでは、学生である私たちが活動を企画し、そしてその活動を実践したり、そこでの体験を振り返り見直したりすることによって、「子どもを見る目」及び「子どもの考えや行動を予測した企画」のレベルを向上させることを目的としています。現在、活動の場として、五福公民館、託麻公民館、大江公民館、中央公民館、東部公民館などの社会教育施設にご協力いただき、企画・運営を含めた大学外での体験活動を行っています。



2017（平成29）年度メイクフレンズ活動体系について

熊本大学教育学部2年 島村健佑

本年度は熊本市の5つの公民館と提携させていただき、7班構成で活動を行ってきた。前年度の流れを引き継ぎ、年間を通して特定の子どもたちと共に活動の企画・運営をするプランナー班、学生が主体となって企画・活動をする単発班、ホール班として活動を行った。

メイクフレンズでは、「子ども理解」を目的とし、自分たちが企画した活動中の子どもの反応を振り返り、共有している。子どもの同じ反応でも、学生によって感じ方が変わるため、それを共有することで、今自分の持っている「子ども理解」という知識を常に修正・追加・更新することができ、「子ども理解」の幅を広げ、深められると考えている。

本年度の方針では、この「子ども理解」を追求していくための土台となるものとして「関心・意欲・態度」を掲げた。現在メイクフレンズには約100名の学生が所属している。大きな組織となったメイクフレンズにおいて、自分が所属する班以外への「関心」、外部の方から依頼を頂いた多くの活動に積極的に協力しようという「意欲」、活動をさせて頂いているという感謝を忘れない「態度」が薄れているように見受けられる。今一度、前述したことを船員一人ひとりに意識してもらおうと考え、頭に残りやすい、馴染みのある「関心・意欲・態度」という言葉を用いた。

メイクフレンズは来年度で19年目を迎える。本年度も公民館をはじめ、様々な場所でのキャンプや風流街ロマンフェスタ、子ども会でのレクリエーションの実施など、外部の方から多くの依頼を頂いた。様々な人との関わりに支えられているこの活動と組織を誇りに思うとともに、メイクフレンズのさらなる発展・充実のため、来年度も新たな挑戦をしていく。

最後になりましたが、本年度も公民館の先生方をはじめ、市や県の先生方、そして中山先生、長濱先生、甲山先生をはじめとする教育学部の先生方には、多大なご理解とご支援を頂きました。私たち学生は多くの方々に支えられて、メイクフレンズという場で貴重な経験ができています。心から感謝申し上げます。これからもご理解とご支援をよろしくお願い致します。



関心・意欲・態度

○方針とは？

私たち2年生は、方針とは「メイフレが掲げている『子ども理解』を追求していく上での土台となるもの」であると捉えた。現状で高度な目標を設定し、それを達成することは難しいことであろうと考えたからだ。その中でも確実に実践できるものを掲げることにした。また、具体的な文言として、方針が意識されやすいように、船員の頭に残りやすい言葉にするという点を重視した。私たち17代では、確実に実践できることから改善していき、次の代へとつなげていきたい。

○関心・意欲・態度とは？

2年生では、上記のような方針を考えていく上で、『子ども理解』を目的とするメイクフレンズにとって、現在のメイフレにおける改善点を挙げ、それらを改善していくことで、メイフレがよりよいものになると考えた。そのことが『子ども理解』を目指すうえでの根本となるものとした。改善点として

- ・メリハリがない（ex: 前で話している人がいるのに私語が多い）
- ・貸して頂いている場所への配慮が足りない（ex: 使用した教室の机の片付け、ロビーの使い方）
- ・他班、外部への関心が薄い人が多い（ex: 他班募集・外部依頼に行く人が一部の人になっている）
- ・一部の人への負担が大きい（ex: 班長がいないと話し合いが進まない）

等が挙げた。2年生では、教育現場での評価方法のひとつである「関心・意欲・態度」という言葉がこれらの改善点をまとめ上げるのではないかと考えた。

だが、この「関心・意欲・態度」という3つの言葉を考えたとき、例えば、他班募集は、他班への興味を持つという「関心」にも、他班募集に参加しようとするという「意欲」にも、実際に参加するという「態度」にも結び付くように、「関心に関する改善点は〇〇」と完全に分類することが難しかったため、挙げられた改善点を「関心」「意欲」「態度」と、それぞれに分類することなく捉えた。

○具体的に実践していくこと

- ・静かにするべき時は静かにする、話を聞くときの態度を意識する。
- ・昼休みに使用できる教室を増やす、使用した後の机の片付けを各班で徹底する。
- ・他班への関心のために

例) →他班募集専用のラインを作る。(活動内容の紹介、他班募集)

→外部依頼・レク依頼のほかに他班募集の連絡も定例会での黒板に書く。

→班の報告の内容をより詳しく、かつ最後に行う。

(活動内容等を詳細に伝え、今日何を行ったのかを共有するため)

- 一部の人への負担を減らすために

例) →共有ノートを班員で順番を決めて班員で回す。

→班長がいない場合でも話し合いが進められるように、こまめにスケジュールを立て、全体で共有しておく。

○方針の先にある姿

「関心・意欲・態度がある人物とは」と考えたときに「何事にも積極的に取り組む人物」であると考えた。メイフレに関して言えば、他班募集に参加する、振り返り会に参加し意見を交換すること等が挙げられる。そのように他班や他者と積極的に交流することで、自分に足りないところを補うことができ、それが『子ども理解』へとつながるのではないだろうか。前述したとおり、方針とは『『子ども理解』の土台となるもの』であると捉えているため、方針を意識していくことによって土台を築き、メイフレ全体で『子ども理解』という同じ方向に向かっていこうと考えている。



2017年度 メイクフレンズ年間活動一覧

月	日	五福ホール A 班	五福ホール B 班	託麻単発班	大江単発班	中央単発班	大江プランナー班	東部プランナー班
5月	14日(日)						開講式	
6月	3日(土)						プランナー合宿	
	4日(日)							開講式
	10日(土)	ホールに眠る宝を探せ！五福ホールアドベンチャー						
	17日(土)							
	18日(日)					テーマは和っ菓子 キラキラかがやけ！ みんなの星☆ ～天の川ようかんで 自分だけの夜空をつ くろう～		プランナー合宿
	24日(土)							プランナー会議①
7月	25日(日)			はじめてのおかいもの～つってつって で売りまくれ！今日 から君もピザ屋さ ん～			プランナー会議①	
	1日(土)							プランナー会議②
	8日(土)		五福のわくわく実験 ～Let's go マジック サイエンスワールド ～				プランナー会議②	
	15日(土)						プランナー会議③	プランナー会議③
	16日(日)				つくってあそぼう！ みんなのテーマパ ーク☆			
	29日(土)						プレ	プレ

月	日	五福ホール A 班	五福ホール B 班	託麻単発班	大江単発班	中央単発班	大江プランナー班	東部プランナー班
8 月	6 日 (日)						秘密の秘密～祭りだ祭りだ!!!!わっしょいわっしょい!!～(台風のため中止)	
	19 日 (土)	遊べ!笑え!夏祭り!!～夏祭りを愛し、夏祭りに愛された子どもたち～						
	26 日 (土)							プランナー会議④
	2 日 (土)						プランナー会議④	プランナー会議⑤
9 月	3 日 (日)					ミッション in 五福～隠されたメッセージを解き明かせ!～		
	9 日 (土)		みんながみんなアスリート～ホールの大運動会2017秋～					
	10 日 (日)			熊大メイフレと作って遊ぼうたくまつり				
	16 日 (土)						プランナー会議⑤	みんなで遊ぼう!ミニゲーム大会!
	30 日 (土)						プランナー会議⑥	プランナー会議⑥
10 月	1 日 (日)				たすけて新米シェフ!つぶれかけのパンケーキ屋を助けよう			
	7 日 (土)						プレ	
	14 日 (土)		ファッションリーダーになろう in ハロウィン					プレ
	15 日 (日)						秘密のハロウィン	

月	日	五福ホールA班	五福ホールB班	託麻単発班	大江単発班	中央単発班	大江プランナー班	東部プランナー班
10月	22日(日)							ハロウィンがやってくる！～みんな集まれ！ハロウィンパーティー～
	29日(日)						プランナー会議⑦	
	4日(土)							プランナー会議⑦
11月	11日(土)			身体の芯まであったまろう！～あったか豚汁&ほかほか炊き込みご飯～				プランナー会議⑧
	12日(日)	風流街ロマンフェスタ					プランナー会議⑧	
	18日(土)							プランナー会議⑨
	26日(日)					くるくるつむつむみ んなのロールケーキ タワー	プランナー会議⑨	
12月	3日(日)							プレ
	9日(土)	届け！！私の気持ち ～カードに込めたメ リークリスマス～					プレ	
	17日(日)						秘密のお楽しみ会	どたんばったんクリスマスサンタを救え！冬の健軍ウォークラリー
	23日(土)				ブラックサンタからの挑戦状～ウォークラリーでミッションクリア～楽しいクリスマスを取り戻せ！！			

月	日	五福ホールA班	五福ホールB班	託麻単発班	大江単発班	中央単発班	大江プランナー班	東部プランナー班
1月	13日(土)		昔遊びだヨ！全員集合					
	20日(土)						閉講式	
	21日(日)			真冬のぼかぼかピクニック！！！！				
	27日(土)							閉講式
2月	11日(日)				女王の思い出っばい、お腹いっぱい、パイ作り！～層の数は愛の数～			
	12日(月)					走って動いてたかおう～最強の国を作るのは誰だ～		
	17日(土)	鬼ヶ島からの挑戦状～ミッションクリアできるかな～						

2017年度 メイクフレンズ外部依頼による活動一覧

活動日	依頼主	活動場所	行事名
5月7日	黒髪18町内子ども会	竜南中学校	新入生歓迎会
5月13日	弓削4町内子ども会	弓削小学校	新入生歓迎会
5月14日	田迎西2町内子ども会	田迎公民館	子ども会
5月28日	龍田西校区3町内子ども会	龍田西小学校	新一年生歓迎会
6月3日	白川小学校1学年委員	白川小学校	1学年親子親睦会
6月4日	砂島小一子ども会	砂島小学校	お見知り会
7月2日	武蔵小学校児童育成クラブ	武蔵小学校	ふれあいの集い
7月8日	春日小学校1学年	春日小学校	春日小学校1学年レクリエーション
7月8日	弓削小学校1学年委員	弓削小学校	1学年行事
7月22日～ 23日	熊本キャンプ協会	芦北青少年の家	熊本スポーツ少年団わくわくキャンプ
8月11日	小島小学校6学年	小島小学校	6年学級活動
8月19日～ 20日	花園公民館	金峰山少年自然の家	西区子どもチャレンジ公民館
10月1日	白川小学校2学年	白川小学校	2学年親子親睦会
10月7日～ 8日	熊本キャンプ協会	芦北青少年の家	熊本チャレンジキャンプ
11月25日	西部公民館	福岡県青少年科学館	西部公民館主催講座
12月23日	楡木1町内子ども会	楡木小学校	クリスマス会
1月21日	富合公民館	アクアドーム	南区チャレンジ公民館
2月18日	熊本キャンプ協会	琴平木町沿道	熊本城マラソン
2月24日	桜木東2町内子ども会	桜木東小学校	お別れ会
2月24日～ 25日	幸田公民館	幸田公民館	公民館に泊まろう！

2017年度 前期五福ホールA班 活動報告書

〈前期を振り返って〉

班長 2年 三角 理 菜

ホール班では、「活動に参加してくれた子どもたち全員がその子なりの楽しさを見つけられるような居場所作りをする」という方針のもと活動の企画・運営を行っている。ホールA班では、6月に「ホールに眠る宝を探せ！五福ホールアドベンチャー」、8月に「遊べ！笑え！夏祭り！！～夏祭りを愛し、夏祭りに愛された子どもたち～」という2つの活動を行った。ここでは、8月の活動を報告させていただきたい。

この活動では、子どもたちが射的やお面づくりなどの夏祭りの屋台をモチーフにしたブースをまわり、ゲームを楽しむ姿をイメージし、企画・運営を行った。活動においては各ブースの説明を兼ねた導入を行った後、子どもたちに各々好きなブースをまわってもらった。「心行くまで遊び尽くす」ために行った支援として、まず、子どもたちに行きたいと思ってもらえるようなブースづくりを行い、屋台の名前を工夫することやゲーム内容を複雑化し、やりがいが出る支援を行った。また、子どもたちにより充実感を味わってもらうために、何回でも挑戦できるルールやゲームを競争化するためのランキング表を作成し、さらにスタンプラリーを取り入れることで、新たな記録に挑戦したい、いろいろなブースをまわってみたいという思いから夢中になって何度もゲームに取り組む姿やスタンプを集めながら楽しんでいる姿が見られた。また、「笑顔で帰ろう」という目的は、遊び尽くし、楽しんだ結果得られる姿であるため、上記の「心行くまで遊び尽くす」ための支援を行い、加えて学生で子どもたちを見送るという支援を行った。最終的には、お見送りによって、子どもたちが笑顔で帰る姿が見られた。

ホール班では、参加する子どもの人数・学年は当日に分かるため、事前に活動の輪に入れない子や活動に飽きてしまった子への支援を考えている。今回の活動では、ブースを一緒に回る学生を配置し、飽きてしまった子には塗り絵を用意するという支援を行った。今後も、考えられる子どもたちの姿・様子を事前に想定しながら、それぞれの子への支援を考えて活動に臨みたい。そして、ホールの活動に来てくれた子どもたちがそれぞれ思い思いに楽しみ、自分の居場所を感じてもらえる活動を企画することに努めていきたいと思う。



2017年度 後期ホールA班 活動報告書

〈後期を振り返って〉

班長 2年 辻 源 輝

後期ホールA班では、12月に「届け！！私の気持ち～カードに込めたメリークリスマス～」というクリスマスカードを作る工作活動、2月には「鬼ヶ島からの挑戦状～ミッションクリアできるかな～」という体を動かすレク大会の以上2つの活動を行った。また、11月には、毎年五福校区で行われる「風流街ロマンフェスタ」という地域のお祭りにボランティアとして参加させて頂いた。

ここでは12月の活動を報告する。この活動では、「こだわりを持ってカード作りに取り組もう」を目的として設定した。この“こだわりを持って”というのは、子供たちが自分のカードの形や色、作り方に対して、好きなように作るといった、カード作り自体に一生懸命取り組むことであると私たちは捉えて、活動の企画を行った。具体的な支援としては、材料を充実させることはもちろんのこと、様々な技法をコーナーに分けて学生が提示したことや、子供たちが作り方がわからない、難しいと感じているところには学生が積極的に介入し、一緒に作ったことが挙げられる。また、最後は発表会を行い、子供たちが「こだわりポイント」を発表させる場を設けた。特に、コーナーに分けて様々な技法を学生が提示する支援については、一つの技法に対して集中的に作る子もいれば、それぞれのコーナーを回って組み合わせたり、新しい発想で作ったりする子がいた。その一方で、カード作りということを忘れて、その技術自体を楽しむ子も見受けられ、とても良い支援だったのではないと思う。

ホールの活動の特徴として、本番当日にならないと子供の人数が把握できないこと、また小学校1～6年生が対象といった幅広い年齢の子供たちと交えて活動を行うことが挙げられる。これらを踏まえながら、事前の話し合いにおいて、当日予想した人数より多く来た場合はどうするのか、幅広い年齢層でも楽しめる活動をするにはどうすればよいのか考えていく必要がある。これがとても難しかったのだが、これにより楽しい活動をつくりあげることができ、とても良い経験にもなった。ホールは様々な子供たちが参加する活動なので、子供たち一人ひとりの視点に立って企画していくことがとても大切だと感じた。



2017年度 五福ホールA班 活動報告

前期班長 三角 理菜
後期班長 辻 源輝

五福ホール班方針

【活動に参加してくれた子どもたち全員が
その子なりの楽しさを見つけられるような
居場所を作ろう！】

小学校1～6年生
未就学児
初めて来てくれた子
いつも来てくれる子
特別な支援が必要な子

“居場所づくり”

活動一覧

活動月	活動名
6月	ホールに眠る宝を探せ！ 五福ホールアドベンチャー
8月	遊べ！笑え！夏祭り！！ ～夏祭りを愛し、夏祭りに愛された子供たち～
11月	風流街口マンフェスタ
12月	届け！！私の気持ち ～カードに込めたメリークリスマス～
2月	鬼ヶ島からの挑戦状 ～ミッションクリアできるかな～

〇目的

「こだわりを持って
カード作りに取り組もう」

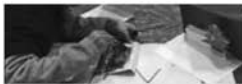
- ・カードに感情を込める姿
- ・思い思いにカードづくりに取り組む姿
- ・作りたいもののイメージを持って作品を作る姿など

こだわり

こだわりを持たせる主な支援

①様々な技法をコーナー分けして設置

- ・絵の具(スバッタリング)
- ・立体づくり
- ・折り紙
- ・装飾
- ・工作



- ### ②作り方がわからない 難しいと感じたところは 学生と一緒に作る



こだわりを持たせる主な支援

- ### ③最後の劇とあわせて 発表会を行い 子どもたちが 「こだわりポイント」 を発表



☆注目してほしい点

- ①それぞれのコーナーで
カード作りを楽しむ姿
- ②学生と一緒にカード作りに
取り組んでいる姿
- ③自分の「こだわりポイント」を
積極的に発表している姿

12月の活動を通して

一つの技法で集中的に作る子
技法を組み合わせる子
新しい発想をもって作る子
技法自体を楽しむ子

楽しさ
自由

“居場所づくり”

ご清聴ありがとうございました



2017年度 前期五福ホールB班 活動報告書

〈前期を振り返って〉

班長 2年 大野 克 廣

前期ホールB班では、昨年の方針である「居場所づくり」を引き継ぎ、7月に「五福のわくわく実験～Let's go マジックサイエンスワールド～」、9月に「みんながみんなアスリート ホールの大運動会2017秋」の全2回の活動を行った。ここでは、7月の活動について報告する。

この活動は「積極的に実験に参加して、各実験の魅力を感じ取ろう」という願いから活動を企画した。活動ではまず、実験ブースの紹介を兼ねた導入を行い、その後各ブースに分かれて実験に入った。実験ブースは、スライム作り、空気砲の的あて、水中シャボン玉作り、浮沈子、レモン飴とヨウ素液の反応の5つを設けた。子どもたちは自由に興味のある実験ブースに行き、実験に参加した。「積極的に実験に参加する」ための支援として、各実験ブースでのほかのブースの紹介や、参加人数に関係なくホールのみで活動ができるようなブースの配置と、物品の準備を行った。ホールのみで活動を行うことで、ほかのブースの様子を見ることができ、興味を持ちやすくした。実際の活動では75人の子どもたちが、材料不足もなく、実験に参加することができた。また、子どもたちは、行ったブースに満足すると「次はあれをしたい!」、「あれ面白そう!」と、ほかのブースに向かっていった。「魅力を感じ取る」ための支援として、ブースごとで子どもたちが、安全かつ楽しく実験に参加できるよう、実験内容を工夫した。例えば、空気砲のブースでは、マッチやドライアイスなどを使わず、ペットボトル空気砲を用いた的あてゲームを行った。魅力を感じ取るとは、それぞれの実験が持つ特有の面白さ、楽しさを見いだして、疑問や歓声をあげることとした。実際の活動では、各ブースから、「すごい!」、「なんで!？」というような声があがり、実験を楽しんでいる姿が見られた。

ホールの活動は、低学年が多く集まる傾向が強いことから、学校教育での理科を意識した活動ではなく、実験を通して楽しいと感じられる活動にした。また、実験に飽きた子や参加に消極的な子どもへの対応として、実験に工作の要素を取り入れることや、タイムアタック、大きいサイズの実験道具の準備などを行った。このように、ホールB班での前期の活動では、子どもたち全員がホールの中で、自分なりの「楽しい」を見つけられるような活動を目指した。今後もホールに自分の居場所を感じてもらえるような活動になるよう努力していきたい。



2017年度 後期五福ホールB班 活動報告書

〈後期を振り返って〉

班長 2年 平 山 くるみ

五福ホール班は、年間を通して「居場所づくり」を土台とし、活動内容や支援を考えた。今年度はA班とB班で協力して活動を行った。後期五福ホールB班では、10月に「ファッションリーダーになろう in ハロウィン」、1月に「昔遊びだヨ！ 全員集合」の二つの活動を行った。今回は10月の活動を取り上げて報告する。

10月の活動では、「力を合わせて1つの作品を完成させてほしい」という思いのもと活動を企画した。この活動ではまず、ハロウィンの数種類のキャラクターの中から子どもたちに作りたいものを選んでもらった。そこから班を作り、その班内で協力しながら、衣装を作ってもらった。そして、子どもたちの作った衣装を着た学生がファッションショーでランウェイを歩くという活動を行った。

“力を合わせる”ための支援として、子どもがやる気を継続しながら活動に取り組めるように、学生が決めるのではなく子どもたち自身に作りたいものを選んでもらうこと、班に一つの設計図を準備すること、ファッションショーで披露すること、という子どもたちの目指す目標を設ける支援を行った。その結果、中には元々仲の良い子たち同士で集まった班もあったが、初対面の子同士でも、自分が作りたいと思う衣装の班に入り、班の子どもたちみんなで意見を出し合い、自分たちの思い描く衣装を作ることができた班もあった。

ホールにやって来る子どもの中には、活動に積極的に参加するのが難しい子もあり、班活動は難しいとされがちである。しかし、10月の活動では、班内で積極的に関わるような支援を行うことで、活動を投げ出したり、他の子の邪魔をしたりする子はほとんどおらず、班活動を子どもたちの居場所づくりにつなげることができたと思う。これからもホールの活動では、ホールに来た子どもたちみんなの居場所になるような活動にしていきたい。



2017年度 五福ホールB班

前期班長 大野 克廣
後期班長 平山 くるみ

今年度の主要な取り組み

【活動内容に工作活動を取り入れた活動】

工作活動

+

メインとなる
活動内容



より多くの子どもにとっての
居場所づくり

活動一覧

活動月	活動名
7月	五福のわくわく実験 ～Let's go マジックサイエンスワールド～
9月	みんながみんなアスリート ホールの大運動会 2017秋
10月	ファッションリーダーになろう in ハロウィン
11月	風流街口マンフェスタ
1月	昔遊び だヨ！ 全員集合

〇目的

「積極的に実験に参加して、
各実験の魅力を感じ取ろう」



興味のある
実験ブースに参加



別の実験に興味を持つ



新しく興味を持った
実験ブースに参加

驚き
感動
楽しさ

7月の活動について

〇積極的に参加してもらうための支援

- ・各ブースでの他のブースの紹介
- ・豊富な材料、物品の準備



積極性



〇魅力を感じ取るための主な支援

各実験が持つ特有の魅力

+

活動内容の工夫（ゲームの要素）



各実験の魅力を感じ取る、楽しむ



ペットボトル空気砲

○注目ポイント

- (1)各ブースで楽しんでいる姿
- (2)「できた！」と歓喜する姿
- (3)真剣なまなざしで
実験に参加している姿

工作活動を取り入れた活動の成果

なかなか活動に入り込めない子どもも
工作を起点として
活動に入り込むことができていた

前期の例) 実験では…

実験活動の中に個人のこだわりが出せる
工作の工程などを取り入れた

後期の例) ファッションショーでは…

ホールでは珍しい班活動内の協力の中で
工作活動を取り入れた

1年間を振り返って

さまざまな
活動

工作

居場所
づくり

ご清聴ありがとうございました



2017年度 前期託麻単発班 活動報告書

〈前期を振り返って〉

班長 2年 島 村 健 佑

前期託麻班では、6月に「はじめてのおかいもの～つくってつくって売りまくれ！今日から君もピザ屋さん～」、9月に「熊大メイフレと作って遊ぼうたくまつり」の2つの活動を行った。

6月の活動では、子どもたちに「お客さんを意識しながら作った自分の自信作をアピールしてお客さんに買ってもらう喜びを感じてほしい」という思いのもと活動を企画した。今回は調理の後に新たにピザ屋さんをすることを付け足した。午前中の話し合いでは、どのようなピザを作るのかということ以外にも自分たちのピザ屋の名前も決めてもらった。そのピザ屋の名前で一日中呼ぶことで、自分はピザ屋さんであるということを意識し、お客さんのことを考えながらピザ作りを行えた。また、ピザ屋を行う前に、ピザ屋の名前やアピールポイントを書くための看板づくりをした。どのような言葉を用い、どのような色使いだとお客さんの興味をひくことができるのかを試行錯誤していた。実際にピザを売っている時は、看板を使いながら、自分の口でも「おいしいですよー！」と呼び込みをしていた。そのような活動を経て自分のお店のピザが売り切れになったとき、とても喜んでいる姿を見ることができた。

9月の活動では、「他学年と教え合いや助け合いを通して関わり、最後には学年を超えて一緒に遊んで楽しんでほしい」という思いのもと活動を企画した。午前の屋台の工作では、どのような的をつくるのかなどのデザインを考えるシートを、あえて班の人数の半分しか配らないことで1枚を2人で共有し、その中でお互いにアドバイスをしあっている姿が伺えた。また、午後からは、自分たちの屋台のゲームのリハーサルや他の班に向けて屋台紹介をすることなど、班活動を通して仲を深めることができた。実際に屋台を回って遊ぶ時間では、わずかながらではあったが、初めて会った他学年の子どもたちが一緒に回っていて、とても楽しんでいる様子を見ることができた。

前期班長を経験した中で、私たちが予想した子どもたちの姿と実際の子どもたちの姿が、ずれることがしばしばあった。そのような発見・経験ができることを糧にし、これからも活動を企画、運営、振り返りといったサイクルを継続し、学び続けていきたい。



2017年度 後期託麻単発班 活動報告書

〈後期を振り返って〉

班長 2年 浅井 敬大

後期託麻班では、11月に「身体の芯まであったまろう！～あったか豚汁&ほかほか炊き込みご飯～」、1月に「真冬のぽかぽかピクニック！！！！」という活動を行った。

11月の活動では、見たい姿として子どもたちがおかいものや調理を行っていく過程で「おいしさ」を求めていく姿があげられた。そのため、おかいものでは子どもたちに「よりおいしい旬の食材を話し合い選ぶ」、調理では「食材をさらにおいしく調理する方法を考え調理する」という思いで活動を企画した。おかいものでは、おいしい具材の特徴が書かれた目利きシートを基に子どもたちがおいしい食材を目利きし選び取る姿が見られ、調理では食材の固さで切り方を使い分け、食材を入れて煮る順番を考える姿を見られた。最後に「おいしさふりかえり」と題し、これまでの活動をレシピを作ることを通して振り返ることで、子どもたちが「おいしい」豚汁と炊き込みご飯はおかいものの目利きや調理の工程を踏むことで作ることが出来たことをもう一度実感することが出来ていた。

1月の活動では、見たい姿として子どもたちが活動を純粋に楽しみ、自然と交流する姿があげられた。そのために、単発班でこれまで行ってきた「班活動」が子どもたちの自然な交流を妨げているのではと思い、活動の中で班活動を最小限にした。午前中のクッキングでは子どもたち同士で作った班で楽しくサンドイッチを作っている姿が見られ、午後からの活動では班を取り除き、外で全員で遊ぶレクを通して子どもたちの笑顔や元気いっぱいな声が響き渡っており、一緒に活動を行ってきた学生も含め全員が楽しく交流している姿を見られた。

後期班長を経験し、班員とうまく連携し、様々な人の意見を取り入れることの大変さ、子どもたちの視点に立ち支援や企画を計画していくことの重要性を、再度実感することができた。今後も学生間での話し合いをより大切にし、子どもの立場にたった充実した活動を計画していきたい。



2017年度 託麻単発班 活動報告

前期班長 島村健佑
後期班長 浅井敬大

前期活動

6月“はじめてのおかいもの”
「つくってつくって売りまくれ！
今日から君もピザ屋さん」

9月
「熊大メイフレと作って遊ぼう
たくまつり」

目的

お客さんを意識しながら作った
自分の自信作をアピールして
お客さんに買ってもらう喜びを感じよう

おかいもの:「お客さんが食べる最高のピザを作るため
の最高の仕入れをしよう」



調理:「みんなで力を合わせて最高のピザを作ろう」



ピザ屋:「自信作をアピールして買ってもらう喜びを
感じよう」

お客さんを意識させるための支援

■ピザ屋の名前決め
(名札に記入、ピザ屋の名前で呼ぶ)

→自分はピザ屋だということを意識



自信作をアピールさせるための支援

■ピザ屋の名前やアピールポイントを書くための看板作り

→言葉や色遣いを工夫
お客さんの興味をひくための試行錯誤



ムービー

①自信作をアピールしている姿

②買ってもらうことに喜びを感じている姿

活動を通して

<おかいもの>
お客さんに買ってもらうためにきれいな食材を選んだ
<調理>
ピザを盛り付けるときに見栄えを気にした
<ピザ屋>
自分のお店のピザの呼び込みをしていた

「お客さんに買ってもらう」喜び
を感じられたのではないか

△改善点

自分のためだけに作る子どももいた



子どもに意識してほしいことを
反復的に示す

後期活動

11月“はじめてのおかいもの”
「身体の芯まであったまろう！
～あったか豚汁＆ほかほか炊き込みご飯～」

1月

「真冬のほかほかピクニック！！！！」

新たな試み

目的：楽しさ・仲良しを膨らまそう

楽しさ・仲良し

個

班

全体

活動の流れ

楽しさへの支援

活動を純粋に楽しんでいる姿

・多くのレクを準備する
→鬼ごっこ・ポートボール・陣取り・
ドッチビー



仲良しへの支援

自然と交流し、仲良くしている姿

・調理のみ班活動で、他は全て全体活動
→主に全体での活動を行う
・さまざまな子ども同士の交流の場を作る
→レクでチーム替えを頻繁に行う

子どもの様子

楽しさ

笑顔あふれ、元気いっぱい遊びまわる

仲良し

それぞれが自由に交流している



活動を通して

全体での活動を行う



子どもたちが自由に交流することができる
学生もより多くの子どもたちに関わることができる



ムービー

子どもたちが全員で楽しんでいる様子

①午前中のアイスブレイク(ボールばいばい)

②午後からのレク活動(フルーツバスケット)

アイスブレイク(ボールばいばい)



△改善点

危機管理が難しくなる

→子ども全員を学生一人一人が気を配る

班を解体することで孤立してしまう子ども
仲を広げることができない子どもへの対応

→仲を深めることができる支援を行う

ご清聴ありがとうございました



2017年度 前期大江単発班 活動報告書

〈前期を振り返って〉

班長 2年 村 上 ゆ う

前期大江単発班では、7月に「つくってあそぼう！みんなのテーマパーク☆」、10月に「たすけて新米シェフ！つぶれかけのパンケーキ屋を助けよう」の2つの活動を行った。

7月の活動は、テレビ番組のVS嵐に登場する「コイン積み」などのゲーム作りや運営を行いながら、それぞれの役割を通して班員を思いやり、頼られる喜びなどを感じて欲しいと考えて企画した。今回は、工作やゲームを楽しむことに加えて、「思い合いながら役割を果たす」ということに重点を置いた。活動では、役割の内容を分かりやすく伝えるために「各係の役割の内容が書かれた紙を渡す」、「学生による役割の手本の劇を見せる」などの支援を行った。特に工作に関する役割の劇では、仕事内容だけでなく班員を思いやる様子も演じて見せた。その結果、楽しみながらも自分の役割を意識して、班員で助け合いながら工作やゲームに取り組む姿が見られた。

10月の活動は、パンケーキ作りを通して個性を発揮し、さらにお互いの個性を認め合う体験をしてほしいと考えて企画した。個性を発揮できるように、パンケーキの型やトッピングの選択肢に幅を持たせるなどの支援を行った。実際、子どもたちはじっくり考えながら思い思いにオリジナルのパンケーキを作っていた。また、個性を認め合うための支援として、パンケーキの写真をプロジェクターで映しながら「自分のアピールポイント」と「班の友だちの良いところ」を伝え合う発表会を行った。同じ班の友だちに加え、他の班の子や導入の学生にも褒められる機会を設けたことで、より認め合うことや満足感に繋がれたと思う。実際の発表会では、歓声が上がって盛り上がったため、嬉しそうに微笑む子どもたちの姿が見られた。

2つの活動はどちらも「思い合い」や「認め合い」というように、周囲との関わりをテーマにしたものであった。しかし、役割をこなすだけでなく班員を思いやって役割をさせることの難しさや、発表会で自分の思いをうまく表現できない子どもに対する支援の難しさが課題として挙がり、半日という短い活動の中でも子どもたちの間でよい関わりができるような環境づくりの難しさを実感した。この経験を今後しっかりと活かしていきたい。



2017年度 後期大江単発班 活動報告書

〈後期を振り返って〉

班長 2年 米 村 剛

後期大江単発班では、12月に「ブラックサンタからの挑戦状～ウォークラリーでミッションクリア～楽しいクリスマスを取り戻せ!!」、2月に「女王の思い出いっぱい、お腹いっぱい、パイ作り!～層の数は愛の数～」の二つの活動を行った。

12月の活動は、子どもたちが日ごろしないような「難しい事」、子どもたちにとって「新しい事」を経験してもらい、そこから達成感を味わってほしいと思い活動を企画した。企画段階から「子どもたちにとって難しい事、新しいことはどんなものだろうか」「難しい事といっても難易度はどこまで上げるのか」「新しいことに対するルール説明はどこを注意すればいいのか」などについてしっかりと話し合った。その結果、活動の主軸となるウォークラリーも普通のものではなく「フォトウォークラリー」となり、そしてその合間に各班で行うゲームも内容の濃い、尚且つ子どもたちにとって難しく新しい「リアル脱出ゲーム」「文字文字くん」といった充実したものとなった。子どもたちも、しっかり班で仲良く協力しながら活動を楽しめており、達成感を味わうことができていたようだった。導入の完成度が高く、子どもたちが世界観に浸ることができ、本気でブラックサンタにひどいことをされたサンタさんを助けようとしていたのも印象的だった。

2月の活動は、「どんな姿が調理を通して見たいか」を話し合っていくなかで「一つの目的のために試行錯誤する姿」「班の皆で話し合い、協力する姿」が挙がり、それをもとに企画した。「試行錯誤」というと、失敗を通して工夫を重ねていく、という姿を想像するが、今回は「班の皆で、どうしたらおいしいパイができるか工夫を話し合い、決めていく」ことを試行錯誤とし、そのために味見をしたり、焼き具合を話し合う場を用意したりした。その結果、子どもたちは班で一つのパイを作っていく過程で様々な工夫を話し合い、おいしいパイを作ることができていた。

二つの活動を通して子どもたちの考え方・反応を企画段階からしっかりと予想していくことの大切さ、難しさを知った。対象学年の子どもたちがどういった考えをするか予想できた第一回の活動はしっかりと目的に即した姿を見せてくれた。第二回の活動は子どもたちの反応を細部まで予測することができず、活動の流れに影響が出てしまいそうだった。これらの経験を、これからより良い活動を作っていく際にしっかりと活かしていきたい。



2017年度 大江単発班 活動報告

〈発表者〉
前期班長 村上ゆう
後期班長 米村剛

前期活動

- 7月 「つくってあそぼう！
みんなのテーマパーク☆」
- 10月 「たすけて新米シェフ！
つぶれかけのパンケーキ屋を
助けよう」

〈目的〉
班の皆と関わり合いながら
それぞれの個性を認め合おう
個性の発揮



関わり合い

ミニゲーム
発表会

個性の発見・個性の認め合い

〈個性を発揮させるための支援〉

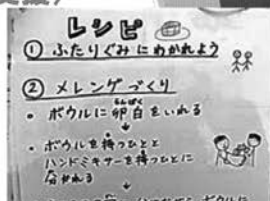
- ▶ パンケーキの型・トッピングなど
デザインの選択肢に幅を持たせた



思い思いにオリジナルの
パンケーキを作る姿

〈個性を認め合うための支援〉

- ▶ 班の関わり合いを
深められる声掛けや配慮
- ▶ プロジェクターを用いて
「自分のアピールポイント」
「友だちのパンケーキのいいところ」
を伝え合う発表会



多くの人から認められて
満足そうに微笑む姿

〈ムービー〉

- ① 真剣かつ思い思いに
パンケーキを作る姿
- ② 発表会で満足そうに微笑む姿

〈調理〉

思い思いにパンケーキを
作る様子

〈活動を通して〉

発表会で自分の思いをうまく
表現できない子どもがいた



- ▶ 企画の時点で子どもの立場に立った話し合い
- ▶ 短い活動時間の中でも子どもたち同士で深い関わり合いができる環境づくり

後期活動

12月

「ブラックサンタからの挑戦状
～ウォークラリーでミッションクリア～
楽しいクリスマスを取り戻せ！」

2月

「女王の思い出いっぱい、お腹いっぱい、
パイづくり！～層の数は愛の数～」

〈目的〉

協力して挑戦し、みんなで
達成感を味わおう！



〈「挑戦」のための支援〉

- ▶ 子どもたちが「新しい」「難しい」と
思えるゲーム
「フォトウォークラリー」「リアル脱出ゲーム」等

<見られた姿>



- ・ やったことのないゲームで盛り上がり、
楽しむ姿
- ・ 子どもたちにとって程よい難しさの
ゲームに果敢に挑戦する姿

〈「協力」のための支援〉

- ▶ 仲良くなれるアイスブレイク
- ▶ 協力できる場面
「ドッジボール（オリジナル）」
「リアル脱出ゲーム」等

<見られた姿>



- ・ 子どもたちだけで話す姿
- ・ ゲームをクリアするために、班の仲間同士
で意見や考えを出し合う姿

＜ムービー＞

1. 「新しいこと」「難しいこと」に挑戦する姿
2. 班の皆で協力する姿

＜「達成感」のための支援＞

- ▶ 子どもたちが世界観に入り込む
完成度の高い導入の劇
- ▶ 劇の世界観が絡んだゲーム

＜見られた姿＞

- ・ 世界観に入り込み、最後まで積極的に活動に参加している姿
- ・ ゲームに全力で取り組み、最後に達成できたことを喜んでいる姿

＜活動を通して＞

活動に来てくれた子どもたち全員で
達成感を共有できたかとなると...



△最後のゲームでいきなり全員になってしまった

◎徐々に、班から全体へとになっていく
活動にするなど
子どもの心理・考え方に沿った支援が必要

ご清聴ありがとうございました



2017年度 前期中央単発班 活動報告書

〈前期を振り返って〉

班長 2年 川 添 詩絵里

前期中央単発班では、6月に「テーマは和っ菓子 キラキラかがやけ！みんなの星☆～天の川ようかんで自分だけの夜空をつくろう～」、9月に「ミッション in 五福～隠されたメッセージを解き明かせ！～」という活動を行った。

6月の活動での見たい姿は「新体験=発見」とし、具体的な姿として、学び、追求、共有、感動、この4つを定めた。学びへの支援としては調理前にクイズを取り入れ、知っている子が教える姿や、「へー！」という声をあげる姿が見られた。感動の支援としては、天の川ようかんを全員で一斉にひっくり返したり、和紙を下に敷いたりと雰囲気づくりを行い、ひっくり返す際などにおー！きれい！といった歓声があちこちから聞こえた。細かい支援が多く組み込まれた分それぞれの目標の4地点が明確になっていて、いろいろな視点からの発見が溢れた活動にできた。

9月の活動のテーマは「個人が輝く」とし、「認め合い」「笑顔」を軸にする活動を行った。力、瞬発力、知識、勇気の4分野のミッションを用意し、子どもたちに分野ごとのリーダーを班内で決めさせた。そして、子どもたちの名札に輝きの証としてのシールをそれぞれの分野で貼るようにしたことで、学生にシールを見せながら自分のがんばったことを自慢する姿が見られた。「力」では、リーダーが最後の強敵に立ち向かう役割を担ったことで、班の子を応援したり、「リーダーはすごいんだ！」と自慢したりする姿が見られた。「勇気」では、犯人あての手がかりをリーダーが得られるようにしたことで、終始リーダーを中心に作戦を立てたり、話し合いをしたりする姿が見られた。活動全体を通して、子どもたちの楽しそうに笑っている様子を見ることができた。総括して、「認め合い」や「笑顔」そして「個人の輝き」を感じられる活動となった。

前期班長を経験し、子どもそれぞれが持つ個性の豊かさを実感した。しかし、だからこそ子どもそれぞれの良さを生かしつつ一緒に活動を行っていくことの難しさを学んだ。この経験を活かし、今後さらによい企画を作り上げていきたい。



2017年度 後期中央単発班 活動報告書

〈後期の活動を振り返って〉

班長 2年 吉 田 和 真

後期中央単発班では、11月に「くるくるつむつむみんなのロールケーキタワー」、2月に「走って動いてたたかおう～最強の国を作るのは誰だ～」の2つの活動を五福公民館で行った。

11月の活動では、「自然な助け合いを通してみんなで感動の輪を広げよう」を目的として立て、午前中にレクリエーション、午後からロールケーキ作りを行った。この目的の核は、子どもたちによる自然な助け合いと完成時に子どもたちが達成感で満ち溢れているという2点である。そこで、目的を達成するための支援として、ケーキの味やデザインを考える話し合いでの学生の子どもに対する声掛けを事前に共有した。そうすることで、子ども主体の話し合いを行えるようにした。さらに調理では工程を4つに分け、子どもに役割分担をし、担当した子どもが他の子どもに教えられるようにした。また、子どもたちを世界観に引き込むための「王様のためにロールケーキを作る」という設定も、感動を引き立てることとなった。このような支援の結果、話し合いや調理で子どもたちによる自然な助け合いができていたり、大いに感動したりしている場面が活動に見られた。全体的に振り返っても、目的と内容がしっかりとあった活動になっていたので、満足のできる活動が作れた。

2月の活動では、「1つに向かって自分なりに貢献し活動を存分に楽しもう」を目的として立て、ある国の修復のために各ミッションをクリアしていくといった内容の活動を行った。この目的の核は、学年差や個人の能力差にとらわれない自分なりの協力と子どもたちに活動を存分に楽しんでもらうという2点である。そこで、目的を達成するための支援として、たくさんのレクリエーションを用意し、その都度話し合い・作戦タイムを設け、協力ができる体制をとった。さらに活動を楽しんでもらえるように、子ども対子どものレクリエーションを用意した。このような支援の結果、真剣に作戦を立てたり、自分の意見をしっかりと主張したりする場面が見られた。全体的に振り返ると、子どもたちが楽しそうに遊ぶ姿が見られたので良い活動が作れた。

以上2つの活動を企画・運営してきたが、大変だったこと、感動したことなどいろいろな感情がある中でたくさんの学びがあった。この学びを今後のメイクフレンズの活動および教育を考える場で有効的に活用したい。



2017年度 中央単発班

前期班長 川添詩絵里
後期班長 吉田和真

前期活動

〈6月〉

テーマは「和っ／菓子」

キラキラかがやけ！みんなの星☆

～天の川ようかんで自分だけの夜空をつくろう～

〈9月〉

ミッション in 五福

～隠されたメッセージを解き明かせ～

〈目的について〉

活動

個人が
輝く

つながり

全体に…

笑顔

〈目的〉

「**つながり**の中に

それぞれの **輝き** が詰まった

笑顔 をちりばめよう」

〈支援①〉

全員がリーダー

→分野ごとのリーダーを決める

力

・人運び
・風船相撲
・手押し相撲

瞬発力

・紙掴み
・もぐらたたき

・クロスワード

知識

・犯人当て
ブラックボックス

勇気

〈支援①〉

分野ごとのリーダーを決める

力



リーダーが自慢「えっへん」

瞬発力



リーダーにアドバイス




知識

答えを話し合い中



勇気

犯人は〇〇かな～？



〈支援②〉
輝きの証(=シール)

- ・視覚化
- ・リーダーには
その分野にちなんだ
特別なシール

↓

シールを自慢する姿

〈ムービー〉

力

…
風船相撲

→リーダーを
応援する姿



〈目的の振り返り〉

「つながりの中にそれぞれの輝きのつまった
笑顔をちりばめよう」

つながり

…話し合う、作戦を立てる、
応援する姿

個人の
輝き

…シールを自慢する姿
リーダーが自慢げにしている姿

笑顔


…終始笑顔でミッションに
取り組む姿

〈活動を通して〉

- ▶ 十人十色の子どもたち
一人一人が輝く姿を
引き出すことの難しさ
- ▶ 子どもの心からの笑顔を
見られることのすばらしさ

↓

今後も子どもたちがのびのびと活動を
してくれるような企画をしていきたい



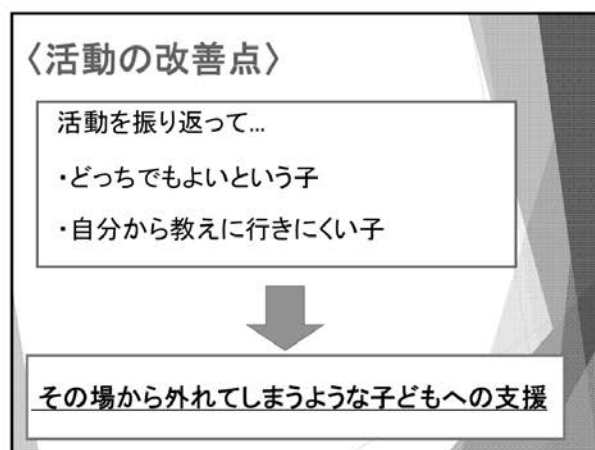
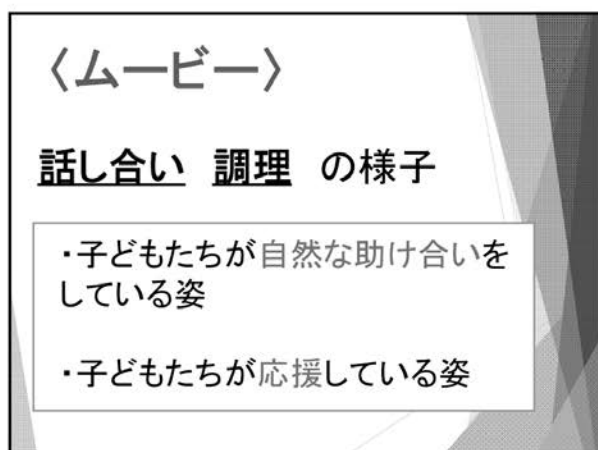
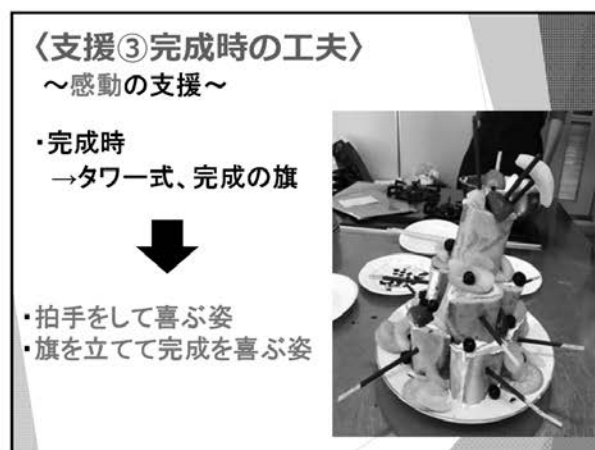
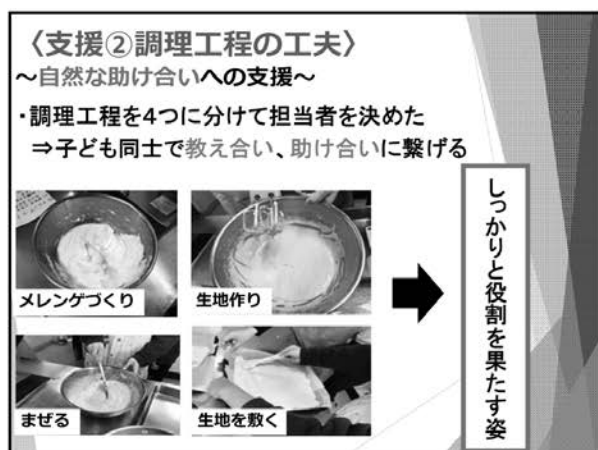
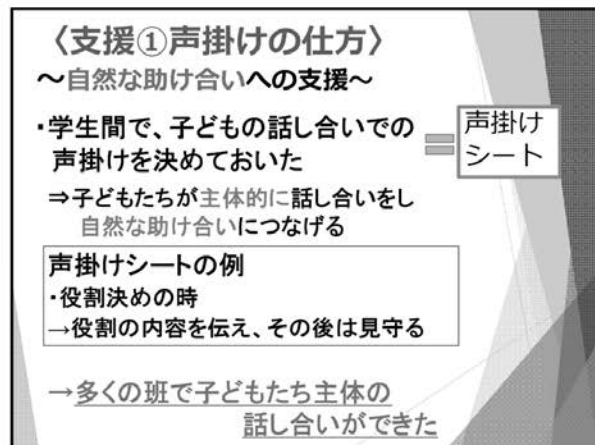
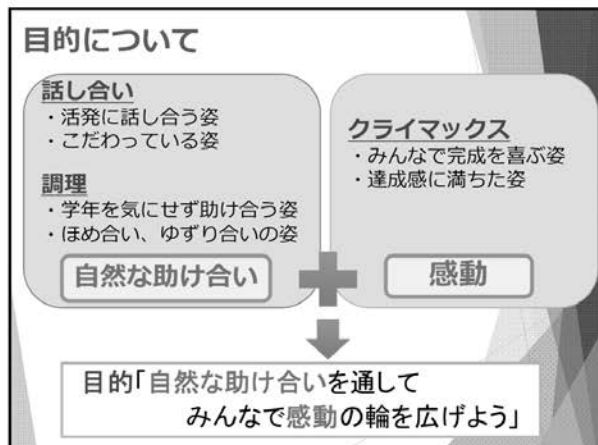
後期活動

〈11月〉

くるくるつむつむ
みんなのロールケーキタワー

〈2月〉

走って動いてたたかおう
～最強の国をつくるのは誰だ～



ご清聴ありがとうございました



2017年度 前期大江プランナー班 活動報告書

〈前期を振り返って〉

班長 2年 佐原 椋太

まず大江プランナー班では、子どもたちに自主性を身に付けてもらうことを、年間を通じての目標とした。それを達成するために、『自信』と『仲良し』という2つの観点から支援を行った。今年度は、小学3～5年のプランナー13名とともに活動してきた。前期では、5月に開講式、6月に合宿を行った。また8月に夏の活動を行う予定であったが、台風のため中止とした。

開講式は、「次の会議を楽しみにしてくれるように開講式を楽しんでもらう」を目的とした。プランナーについて、過去の活動の動画を見せながら、説明を行った。また雰囲気を盛り上げるためのレクリエーションを行った。元々知り合いのプランナーもいたが、最初は緊張した様子も見られた。しかしレクを通じて、少しずつ緊張もほぐれ、笑顔も見られるようになった。

プランナー合宿では、「実践を通じてプランナーについて、学ぼう」また「全員と関わって楽しむことで、プランナーの仲を深めよう」という2つを目的とした。合宿では、2日目に行うレクリエーションを考えるという議題のもと、初めての会議を行った。初めての会議ということもあり、最初は戸惑いを見せていたが徐々に会議の雰囲気にも慣れ、意見を積極的に言えるようになった。会議は、レクで使える道具を制限することで選択肢を絞り、会議を進めやすくした。最初は自分のやりたいこと中心の意見が多かったが、どうすれば他のプランナーが楽しめるのかを考えた発言をするプランナーもいた。プランナー合宿を通して、生活を共にしたり、会議で意見を交わしたり、一緒にレクリエーションを楽しんだりしたことで互いのことを知ることができ、わずかながらプランナー同士の仲が深まったように感じた。

夏活動は中止になってしまったが、これまでの半期間の活動を通して、プランナー間の仲が深まり、参加者を思いやった発言なども増えてきた。しかし、個人差も見られ、自分からは意見を言えない子がいたり、自己本位の意見が目立つ子がいたりするなどの、課題も見られた。後期は、子どもだけで会議ができ、お客さんを子供自身が考えておもてなしできるように支援していきたい。



2017年度 後期大江プランナー班 活動報告書

〈後期を振り返って〉

班長 2年 太田 愛弓

秋会議では、会議をより進めやすくするために意識すること、5つを記した“会議のいろは”というものを提示し、『自信』を育てるための支援とした。会議の中で意識付けを行ったことで、会議の進め方を理解し、話し合いを円滑に進められるようになった。それによって積極的に参加するようになり、“自分たちで会議を進める”という『自信』の芽生えを感じた。また、『仲良し』では、夏活動とは異なる班を構成し、新たな輪を広げるようにした。その結果、レクや話し合いを通して班での仲の深まりが見られた。秋活動では、3つの班に分かれてレクリエーションを企画した。事前にプランナーが自分の役割を何度も確認したため、きちんと把握した上で取り組んでいた。また、それぞれの班の中で声を掛け合い、参加者をおもてなししようとする姿が見られた。

冬会議での『自信』は「参加者のことを考える」を目標に進めた。また、秋活動までは学生が会議を進めていたが、プランナーの様子を見て、“自分たちで会議を進めた”という自信を得てほしいと思ったため、段階を踏んで学生の会議への介入を減らした。『仲良し』では、全体の仲も深めなかったため、会議と活動とで班構成を変えた。最終的には参加者のことを考えてルールを決めたり、どうすれば楽しんでもらえるかを考えたりしながら、プランナーで会議を進めることが出来た。冬活動は、学生が声かけをしなくても周りを見て協力し合う姿や、参加者をおもてなししようと工夫するプランナーの姿が見られた。

1年間の活動を通して、『自信』については、学生の介入がなくてもプランナーで会議を進められるようになった。さらに、参加者のことを考えながら、活動を企画し運営することができた。『仲良し』については、閉講式で自分たちのこれまでの様子を振り返るムービーを見て、みんなで笑いあったり別れを惜しんだりしていて、班だけでなく全体の仲も深めることが出来たと感じた。『自主性』は、これまで求めてきた『自信』と『仲良し』から、会議と活動の2つの場面での自主性が見られ、個人差はあるが、プランナーそれぞれの成長を感じた。今回のプランナー活動で学んだことを忘れずに、日頃の生活に活かしてくれることを願う。



2017年度 大江プランナー班 活動報告

発表者 前期班長 佐原椋大
後期班長 太田愛弓

プランナーについて

- ・一年間を通して、**同じメンバー**で活動を企画・運営
- ・活動本番は**参加者**(活動ごとに募集)を呼ぶ

【1年間の流れ】

【活動の流れ】

- ・会議×3
- ・プレ
- ・本番

年間目標について

年間目標 … 1年を通して身につけてほしいもの

『自主性』 … 年間目標

『自信』 『仲良し』 … 観点

支援

『自信』・『仲良し』と『自主性』のつながり

自信

できるようになる → 『自信』 → 積極的に行動する → 『自主性』

仲良し

楽しい → 『仲良し』 → 自然と協力する → 『自主性』

目指す姿

	会議	活動
冬	<ul style="list-style-type: none"> 相手の意見をふまえて自分の意見を言う。 質問しながら聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> プランナーだけで考えながら活動を進める。
秋	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見を説明しながら言う。 相手の意見を理解しながら聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> プランナーを中心に活動を進める。
夏	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見を言う。 相手の意見に、反応しながら聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> 学生に教えられながら活動を進める。

冬会議の『自信』の目標

プランナーを中心に会議を進める

“自分たちで会議を進めた”

『自信』

『自信』の支援

支援

会議① 学生がお手本を見せる → 役割に挑戦



会議② プランナーが話を進め、学生は適時助ける



会議③ プランナーだけで会議を進める

『仲良し』の目標・支援

班を超えて 全体の仲 を深める。

支援

企画班と活動班のメンバーを変える。

【話し合った内容】

・企画班：参加者へのレクの内容

・活動班：おもてなしの方法



『仲良し』

支援の結果

- ・参加者のことを考えてルールを決めた
- ・どうすれば楽しんでもらえるかを考えた



プランナーだけで会議を進めることができた



ムービーの注目点

会議で参加者へのレクを何にするか意見を出し合っている様子

- 司会と書記それぞれの役割を頑張っている点
- 参加者のことを考えている点

冬活動を通しての成果

『自信』

- ・参加者に合わせて臨機応変にルールを変更したり
分かりやすく言い換えて説明したりしていた

『仲良し』

- ・学生が声かけをしなくとも、周りを見て協力し合っていた

1年を通しての成果 『自信』・『仲良し』

『自信』

- ・プランナーだけで会議を進めた
- ・参加者のことを考えながら企画・運営した

『仲良し』

- ・班だけでなく全体の仲を深めることが出来た

1年を通しての成果 『自主性』

『自信』

『仲良し』



『自主性』

一人ひとりの成長を感じ

それぞれに合った自主性を身につけた

ご清聴ありがとうございました。



2017年度 前期東部プランナー班 活動報告書

〈前期を振り返って〉

班長 2年 門 田 昌 大

東部プランナー班では年間を通して「思いやり」を目標とし支援や活動内容に対してアプローチを行った。今年度は、小学校4～6年生のプランナー15名と共に活動を行ってきた。前期東部プランナー班では、5月に「開講式」、6月に「プランナー合宿」を行った。また、8月に夏の活動を行う予定だったが、台風のため延期となり、9月に後期の活動として行った。

開講式では「気の合う友達を見つけよう」を目的としてプランナーとしてどちらがふさわしいかをクイズ形式として動画化し5人グループで対話しながらプランナー活動の説明を行った。これによって気の合う友達を見つけるとまではいなくても周りの初めて会うプランナーの子どもとも交流ができ、最初ほどの緊張感がなくなり笑顔も終盤には見られるようになりこの活動の2週間後に行うプランナー合宿の地盤ができたと思う。

プランナー合宿では昨年とは違いプランナーの子どもたちだけの参加で行った。目的としては「プランナーの輪を広げよう！深めよう！」と設定し、開講式を終えたプランナーの子供たちに合宿の後から始まる夏活動会議に向けて、いろんな意見が言えるような関係を築くためにレクリエーションや年間のあゆみを作る班を細かく変え、全員が交流を持てるようにした。金峰山少年自然の家でのナイトウォークといったレクリエーションも子供たちの距離を縮めるものとなったと思う。また今回の合宿ではこれから一年間を通して行っていく「会議」について、その練習となるように会議の練習の場を年間のあゆみのタイトル決めという形で用意した。プランナーの子どもたち自身楽しみながら個性があるよい年間のあゆみのタイトル決めができたと思う。

夏活動は台風のため中止となってしまったが、その準備の期間である「会議1.2.3」そして「夏活動のプレ」ではレクを通して仲が深まり、3班に分かれての会議もそれぞれが違う種類のレクリエーションをしっかりと考えてくれた。子どもたちが会議を重ねるにつれて、活動の参加者のことを思いやった意見がでてくる姿が見られたためとても良かった。これからもプランナーの子どもたちが楽しみながら自分達の個性が光る支援を学生側が考えていくことが大事だと思った。



2017年度 後期東部プランナー班 活動報告書

〈後期を振り返って〉

班長 2年 白石 慶太

後期の東部プランナー班においても、前期に引き続き「思いやり」を目標に活動を行った。前期の活動が終わった段階で、年間目標の見直しを行った。前期では、「プランナーから参加者に対しての思いやり」を実践するプランナーの姿が見られたため、後期からは「プランナーからプランナーに対しての思いやり」を求めることになった。例えば、会議中におけるプランナー同士での意見の交流で、相手の意見を聞き、自分なりに理解をしようとする姿を見たい姿とすることにした。

秋活動では「ハロウィンがやってくる！～みんな集まれ！ハロウィンパーティ～」を行った。内容はマフィン作りとコンテスト、プランナーが考えたレクリエーションである。この活動の企画会議では、めあてとして「相手の意見を理解して、会議を進めよう」や「聞き上手になって会議を進めよう」をプランナーに提示することで、相手の意見に耳を傾けることができるという「思いやり」の姿を求めた。プランナーにめあての問いかけや呼びかけを行った結果、意見を発表する子に身を寄せるなどして、相手の意見を聞くことができるようになり、会議の形はよりよいものとなった。

冬活動では「サンタを救え！冬の健軍ウォークラリー」を行った。企画会議ではチェックポイントの内容を話し合った。会議中は「意見のキャッチボール」を目的に組み込み、三回の企画会議で意識することができるようにプランナーに考える時間を設け、呼びかけの支援を行った。その結果、「それなら～」や「じゃあ～」といった言葉を使い、相手の意見を踏まえて自分の意見を言う姿を見ることができた。本番の活動では「周りを見て、協力をしておもてなしをしよう」を目的とした。企画会議の話し合いが充実していたため、本番の安全確認や、昼休みでの参加者対応をする姿を見ることができた。

このように一年間を通して、様々な「思いやり」を追求していった。その結果、プランナーはおもてなしをする側として、「相手のことを今まで以上に考えることができるようになり、それが自然と参加者やプランナーの仲間に対しての思いやりとして表れるようになったと感じた。このような活動の経験が、参加したプランナーの自信につながれば幸いである。



2017年度 東部プランナー班 活動報告

【発表者】前期班長 門田 昌大
後期班長 白石 慶太

プランナー活動の1年間の流れ



【流れ】
会議×3
プレ
本番

年間目標について

思いやり

見える

【具体例】
・参加者を考えた意見

見えない

【具体例】
・相手の意見を尊重する
・参加者をおもてなしする

様々な場面で、相手のことを考えられる

前期活動を通して

プランナー

思いやり

参加者

プランナー

思いやり

プランナー

- ・相手の意見に耳を傾ける姿
- ・相手の意見を踏まえてさらなる意見を発表する姿

冬活動について

【活動名】

サンタを救え！
～冬の健軍ウォークラリー～

【活動内容】

ウォークラリー
→ 3か所のチェックポイント

チェックポイントの
ストーリーや
レクリエーション

会議での支援

『意見のキャッチボール』

【意見を発表する】

- ・相手の方を向いて意見を言う
- ・わかりやすい言葉を使う

学生の
呼び掛け

【意見を聞く】

- ・相手の方を向いて聞く
- ・相手の発表したことを理解する
→相手の意見を踏まえて発表する

プランナーに
考えてもらう

会議での支援の結果

【意見を発表するとき】

- ▶ 相手の方を向いて、発表する姿
- ▶ 明確な意見を発表する姿

【意見を聞くとき】

- ▶ 発表する人に、身を寄せる姿
- ▶ 「じゃあ」「それなら」といった相手の意見を踏まえる姿

活動本番の支援

目的

「周りを見て、協力をしておもてなしをしよう」

プランナー同士
参加者の様子
交通安全

プランナーに
考えてもらう

支援の結果(ムービーのポイント)

- ・ **プランナーが
参加者にヒントを出す姿**
- ・ **参加者の答えを引き出す姿**

1年間のプランナー活動を通して

思いやり

- ・ 相手の意見を
理解しようとする姿
- ・ 参加者のお手伝いをする姿

相手のことを
今まで以上に考える

ご清聴ありがとうございました



2017(平成29)年度熊本大学教育学部フレンドシップ事業 シンポジウム・分科会開催要項

日時： 2018年（平成30年）3月8日（木） 9：30～16：30

場所： 熊本大学教育学部 3－A・3－B・3－C・2－C 教室

[午前の部：シンポジウム 教育学部 3－B 教室]

1. 開会挨拶 9:30～9:40

熊本大学教育学部長

八幡 英幸

2. メイクフレンズ活動の実施報告 9:40～11:10

(1) メイクフレンズ活動全体の振り返り

メイクフレンズ船長

島村 健佑

(2) 班活動の振り返りとコメント

メイクフレンズ「五福ホール A 班」班長

(前期) 三角 理菜

(後期) 辻 源輝

メイクフレンズ「五福ホール B 班」班長

(前期) 大野 克廣

(後期) 平山くるみ

メイクフレンズ「託麻単発班」班長

(前期) 島村 健佑

(後期) 浅井 敬大

メイクフレンズ「大江単発班」班長

(前期) 村上 ゆう

(後期) 米村 剛

メイクフレンズ「中央単発班」班長

(前期) 川添詩絵里

(後期) 吉田 和真

メイクフレンズ「大江プランナー班」班長

(前期) 佐原 椋大

(後期) 太田 愛弓

メイクフレンズ「東部プランナー班」班長

(前期) 門田 昌大

(後期) 白石 慶太

熊本市五福公民館社会教育主事

東田 明洋

熊本市託麻公民館社会教育主事

赤木 一延

熊本市大江公民館兼中央公民館社会教育主事

永山 健

熊本市東部公民館社会教育主事 深迫 裕樹

3. 連携協力機関関係者からのコメント 11:10～11:20

熊本県生涯学習推進センター審議員

吉川 良二

熊本県生涯学習推進センター社会教育主事

佐藤 倫子

熊本市市民局市民生活部生涯学習課社会教育主事

川口 雅嗣

休憩 11 : 20～11 :30

4. 特別講演 11:30～12:20

熊本県教育庁教育総務局社会教育課審議員（課長補佐）

本村由紀博

5. 修了証授与並びに閉会挨拶 12:20～12:30

熊本大学教育学部附属教育実践総合センター長

干川 隆

6. 連携協力機関関係者との企画運営協議会 12:30～13:10

連携協力機関関係者

熊本大学教育学部教員

[昼食]

[午後の部：学生自主企画分科会 教育学部 3－A・3－B・3－C・2－C 教室]

7. 学生自主企画分科会 13:15～16:30

開会挨拶 分科会実行委員長

土井 美慧

【分科会における目的と目標】

今回の分科会では、目的を「自分のメイフレを見つけて、次へつなげよう」とし、分科会で様々な意見に触れ合う中で、自分に足りない所や新しい考えを発見することで、自分の視野を広げていけるのではないかと考えた。そして、ただ意見交換を行う分科会ではなく、現状での改善点等、実践的なことも話し合い、次の活動・企画へとつなげていく場にもしたいと考えた。

これらを達成するため、「それぞれの意見や想いを交わし、受け止めよう」を目標とした。この目標には自分と異なる意見に対して、一旦受け止め自分の中に持ち帰ることで、自分の考えの幅を広げてほしいということを意味している。これらを心がけていくことで、自分のメイフレを見つけていってほしい。

13:15～ 開会式

13:30～ 第一部意見交換（70分）

14:40～ 休憩（10分）

14:50～ 第二部意見交換（80分）

16:10～ 閉会式